



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2000 8. 21



## 多くの出会い YMCAサマーキャンプ

短い夏休みが終わりました。もりおかYMCAでは、夏休みの間、「わんぱくキャンプ」「こどもワークキャンプ」「サッカーキャンプ」「海の生活体験キャンプ」「中学・高校生ワークキャンプ」と5つのキャンプを実施しました。

多くの大学生のボランティアリーダー、社会人の方々、留学生と多く人たちの協力で事故もなく、価値あるキャンプをすることができました。

このキャンプを通して参加者の子どもたちはさまざまな出会いを経験しました。YMCAは、「出会い」と「気づき」の場です。人は出会いを通して自らに気づき、成長していきます。さまざまな素敵な出会いが



キャンプを通して子供たちにはあったみたいです。それぞれのキャンプのニュースを作成中です。ご希望の方は、YMCAまで。



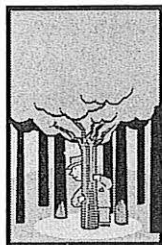
もりおかYMCAわんぱくキャンプ



もりおかYMCAこどもワークキャンプ

## こどもはっぱ判定士に挑戦！！

8月11日（金）海の生活体験キャンプの参加者を対象に、サマースクールを実施し、6名の子どもたちが参加しました。これは、環境庁が進めている事業で、身近な樹木の幹の太さを調べ、その樹木が1年間に吸収する二酸化炭素の量を調べるプログラムです。所定の用紙に調べたデータを記入し、後日、環境庁から「こども葉っぱ判定士」の資格が与えられるものです。海の生活体験キャンプで気仙沼大島の樹木の幹の太さを測定した子供たちは、今度は仁王小学校の校庭の樹木を測定しました。



## 地の塩

### セイタカアワダチ草の話

いまから約20年前、日本中の人たちを敵に回し、日本古来の植物「ススキ」を駆逐しながら次から次へとその勢力範囲を広げていった外来の植物の話をしたい。

その名は「セイタカアワダチ草」別名「きりん草」その名のとおりに、きりんのように背が高く、2メートルぐらいには成長し、黄色の花を咲かせせる。その繁殖力たるや凄まじい。土手から土手。空き地、または、工事現場など、場所を選ばずどこにでも繁殖する。

マスコミも黙ってはいない。何度かいい新聞で取り上げられたし、NHKの「ニュースセンター9時」では、特集を組んだりした。生態系を崩す草、とりわけ秋の風物「ススキ」を駆逐することから、十五夜の月見のときは目のかたきにされていた。

ところが、しばらくして、ある科学番組をみていたら、「セイタカアワダチ草」が全く違った角度からりあげられていた。白衣をきたどこか大学の先生のはなしだったが、「セイタカアワダチ草」の大繁殖はひとつの役割を果たしていたという見解だった。当時、オイルショックを乗り越え、高度経済成長の真っ最中だった日本の経済はまさに「行け行け」状態。次から次へと宅地が造成され、空き地が消え、高層ビルディングにはや替わりしていった。掘り返され粘土層が剥き出しになった土地はもう日本古来の植物が生育できる環境ではなくなっていた。

そこに登場したのが「セイタカアワダチ草」だ。繁殖力旺盛なこの草は、粘土層だろうがどこでも生える。他の草が生育できないところに生えるのだから群落を形成する。当然、状態のよい土地にもどンドン進出する。こうして「セイタカアワダチ草」の大フィーバーが形成されたのだが、固体数がある一定以上になるとその繁殖が抑制されるのが生物界の原則。多くの群落は枯れ、倒れそれが腐り、表土を形成し、他の植物が生育できる状態をつくりあげていった。

つまり、セイタカアワダチ草は他者から非難され、日本中から白い眼向けられている中で淡々と自らの生の使命をまっとうしていたのである。こういう役割を生物学では、バイオニアというそうだが、地球上の生きるものすべてが何らかの役割を担ってこの世に生を受けている、そう感じざるを得ない話だった。(濱)